

平成26年12月14日(日)

老球の細道90号

## 目のつけどころが違う」

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

89号で「あこがれを込めて見る」を書いたので、「見る」ということについて今度は『トレーニングジャーナル』というスポーツ医科学専門誌からの抜粋である。

【「見る」は物事を目で認識することを表し、「視る」には調べるというニュアンスが含まれる。「観る」は鑑賞とか観光とか何か特別な対象を見学するけど、一定の距離感がある。ちなみに英語では「see」「look」「watch」とあるが、それぞれ「見る」「視る」「観る」と同じ感じで使われている。日本語には色々な「みる」があるが、問題は視覚からの情報をどのように利用するかである。そして、それには「みる」ことの目的意識が大きく影響する。

かつて本田宗一郎（ホンダオートバイ、自動車の創始者）というカリスマ経営者がヨーロッパからのお土産として、当時日本に存在しなかったプラスネジを持ち帰ったエピソードを聞いたことがある。ヨーロッパからのお土産として、高級品ではなくネジ1個をもらったほうの気持ちを考えてみると意味もわからずキョトンとしたと想像される。それまで日本には溝が一字のマイナスネジしかなかったらしい。一般人にとってはネジの溝が一字か十字かという違いしかないのだが、本田氏にとっては手作業でしか締められないマイナスネジと機械でも締めることのできるプラスネジという違いが「みえた」ようだ。手作業でネジを締めるのと機械でネジを締めるのとではどちらの作業効率が高いかはいうまでもない。おそらくプラスネジを初めて見たときの本田氏には機械で次々にネジが締められる様子も見えたのだろう。

カリスマ経営者と私たちの大きな違いは目的意識の強さにあると思う。いい車をつくりたいという強い目的意識が常に存在し、目に入る視覚的な情報を常にそういう目的意識というフィルターを通していたと想像される。そして、他の人にとっては次の瞬間忘れ去られるであろう情報さえも自らのセンサーに引っかかれば次の瞬間、創造力という段階に場所を移して思考が開始されるのだろう】

現在はトップレベルのバスケットボールを、わざわざ現地に行かなくてもテレビで見ることができる。今年は男女とも世界選手権が開催された。いずれもスカパー放送で見ることができた。今はNBAシーズン真っ最中である。これまたBS放送で見ることができる。これからは高校生のウインターカップである。東京体育館まで足を運ばなくともスカパーチャンネルを購入すればビールを飲みながら炬燵で見れる。なんと恵まれた時代なんだ。

ただ何となく見るのでは何も発見することはできない。本田氏のように強烈な目的意識によって、つまり、目のつけどころを工夫することによって見えてくる情報がある。それを自分の創造力で再構築していけば、今までにない新しいプレーを創り出せる。

ちなみに、下記はゲームを観戦する際の最も基本的な目のつけどころである。

\*私と同じポジションのプレーヤーはどのように攻撃し、どのように防御しているのだろうか。そして、それが私とどのように違うのか。

\*現在自分たちが練習しているファンダメンタルを世界のトッププレーヤーはどのような場面で、どのようにプレーしているのか。そして、それが私とどのように違うのか。